

中国人駅員の怒り

● 放眼日中

18年ぶりに広東省の潮州と汕頭に
行ってきた。汕頭といえば1980

年代、華僑の資本取り込みなどを目
指して設定された四つの経済特区の
一つに指定され、その発展が見込ま
れたが、今や残念ながら中国沿岸部
でも取り残された地域となっている。
これだけ長い間訪ねていないのに、
まだ昔の雰囲気はかなり残っていた
のは現代中国では希有であり、旅情
を誘うには十分であった。

その汕頭から福建省廈門はさほど
遠くない。広東省の広州から汕頭ま
では高速鉄道が通っており、廈門へ
も簡単に行けると思っていたが、途
中の潮汕駅で1度乗り換えが必要だ
った。切符を予約した後、地元の人
から「厦門へ行くなら汕頭駅ではな
く、タクシーで直接潮汕駅に行つて
乗った方がよい」と言われたが、既
に予約している上、タクシー代もば

かにならず、そのまま汕頭駅へ向か
った。

この駅はつい最近建て替えられた
ばかりで、建物はとても奇麗だが、
ホームに行くエスカレーターは設置
されておらず、乗客は重い荷物を持
つて階段を上り下りしなければなら
ない。実は今回、汕頭―潮汕間は
つも乗る2等車の座席が売り切れて
いたので、1等車を買っていた。と
言っても25分間の乗車で、料金はわ
ずか16元(250円)。日本では考
えられない安さだ。だが、その車両
は一番先頭にあり、潮汕駅の改札口
に向かう階段からは最も離れた場所
にあった。しかも、1等車は座席が
少し広い以外、何の優遇もなかった。
さらに、ようやくたどり着いたエ
レベーターを他の中国人乗客と降り
ていくと、駅員から「ここは違う。
もう一度ホームに戻り、さらに先の

階段を歩いて下りろ」と言われて、
あきれてしまった。思わず「何て不
便な駅だ」と言うと、若い女性駅員
は「私は悪くない。表示はちゃんと
ある」とまくしたて始めて驚いてし
まった。どう見ても、1日に数十人、
いや数百人の乗客から同じような罵
声を浴びているストレスからきた怒
りと察せられた。

潮汕から廈門までの切符もあらか
じめもらっており、一般改札口を出
る必要はなかった。だが、そのまま
次の列車のホームに進めないのが中
国だ。中国の駅では列車が到着する
15分ぐらい前から改札が始まり、そ
れまではホームに入ることができな
いため、乗り換えのわれわれもいつ
たん特別改札を出て、待合室へ行き、
時間がきたら並び直して改札しなけ
ればならない。汕頭の知り合いが言
っていた「直接潮汕駅に行つて乗つ

た方がよい」の意味をかみしめた。
中国では近年、高速鉄道の整備が
急速に進み、どこに行くにもすぐ
便利になっているが、ハードがそろ
つても利便性が全く追い付かない現
状を再認識した。さらにはそのハー
ド面すら、エスカレーターの設置が
ない、車両から改札口までの設計が
良くない、乗り換えが面倒など考慮
して造られているとは思われず、正
直便利とは言えない部分も多い。

そしてその不便さから来る不満の
矛先は駅員らに向けられており、彼
らも十分に分かっていながら、どう
することもできずに、乗客と口論に
なってしまうという悲しい現状があ
る。それでも、強烈なストレスを抱
えながら客のクレームにひたすら謝
り続ける日本の駅員に比べれば、乗
客とのやりとりで発散できる彼らは
まだまだしなのかもしれない。



コラムニスト・アジアソウオッチャー
須賀 努

すが・つとむ 東京外語大中国語科卒。金融機関で上海留学、台湾2年、香港通算9年、北京同5年の駐在を経験。現在は中国を中心に東南アジアを広くカバーし、コラムの執筆活動に取り組む。